



2月16日の診療日。左から、看護師の黒沢良子さん、医師の齋藤徹先生、事務職の齋藤恵さん

仲間とともに
その47

いいたて
クリニック

火曜日は渡辺敢仁(かんじ)先生、木曜日は写真の齋藤徹先生(共に総合診療科)が診察します。事務職は齋藤さんを含め2人いて、共に震災前からのスタッフです

活動データ

- 「いいたてクリニック」は村と協定を結ぶ社会医療法人秀公会が平成22年2月から指定管理者となっています。
- 昨年9月に、診療を再開。現在は、火・木曜日の午前9時から正午が診療時間です。予防接種(要予約)もできます。

木曜日の診療が終わる頃、クリニックの待合室には穏やかな時間が流れていました。事務職の齋藤恵さんは、「以前は混み合って、待ち時間も長くなってしまったのですが」と振り返ります。「村の人はやさしくて、初対面でも親しみやすい。震災前から共に働くスタッフと、ここで、いろいろな思い出話もしています」。また、医師の齋藤徹先生は、本院である「あづま脳神経外科病院」に通う村民とも顔なじみです。「4月以降は村の自宅からクリニックに通うよ、と言う人もいます」。暮らしの変化を気づかない、「気になることがあれば、いつでも来て、気軽に相談してほしい」と話していました。

運転を終了します
小宮仮設焼却施設



運転を終える焼却施設の前で。右が前運営責任者の井土俊輔さん、左が現運営責任者の青山徳幸さん

焼却炉から見つかった集めた硬貨。1枚ずつ拾い集めた警備員、691枚を南相馬警察署に届けました。保管期限を迎え、関係機関が協議の結果、村の所有となりました

平成26年度から屋内の片付けごみを焼却してきた環境省の施設「小宮仮設焼却施設」が、役目を終え、3月初旬に運転を終了します。2年間で1900トンを焼却する予定でしたが、家庭内の燃えるごみなどが増え、期間を延長して約3000トンを焼却しました。運転終了後は、施設をテナント等で覆って解体工事を行い、年内を目処に原状回復します。

この焼却施設では、燃えかすの中から、硬貨を拾い集めてきました。「燃えかすとして、ただ捨てられるのを見過(こ)せなかった」と井土前運営責任者は話します。「村の皆さんが、それだけ慌てて避難し、片付けも急がなければならなかったということでしょう」。村では、この善意を生かしたいと考え、回収した2万5000円余りの全額を熊本地震で被災した熊本県益城町に寄付させていただきます。

表紙
みらい議会

小学6年生が議場に立ち発想豊かに未来の事業を提案しました。P8の記事もご覧ください。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。